

令和５年度 田原西小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

- ◎基本目標・・・社会の変化に対応しながら、生涯にわたって成長し続けることができるよう、知・徳・体の調和がとれ、想像力と実践力に富んだ、たくましく心豊かな児童を育成する。
- ◎具体目標
- めざす児童像
 - ・健康で明るい子
 - ・思いやりのある子
 - ・自ら考える子
 - ・がんばりぬく子
 - 児童スローガン ・『育もう！田西っ子プライド「思いやる心・気づく心・がんばりぬく心」』
- 「健康で明るい子」を児童の基盤としてめざすとともに、本校の伝統を背負って立つ田西っ子プライド「思いやる心・気づく心・がんばりぬく心」を磨いていく。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- 「元気なあいさつが響き、教師も児童も生き生きと学び合う学校づくり」
- 《目指す学校づくりの３つの視点》
- ◇日々の生活にあいさつが響き、明るく活気のある学校
 - ◇子ども一人一人が生き生きとし、学び合える学校
 - ◇楽しく安心して生活ができ、保護者・地域住民から信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 「第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」の理念や趣旨をふまえ、明るく活気にあふれる教育活動を実践し、好ましい校風づくりに努める。
- (2) 心豊かに、他者と協働しながら多様な価値観を尊重し、創造的かつたくましく生きていくことを目指し子ども一人一人が未来の創り手となれるよう必要な資質や能力、学力の向上に努める。
- (3) 健康で安全な生活が送れるよう、社会的規範や基本的な生活習慣を身に付け、自らを律していける能力の育成と体力の向上に努める。
- (4) 主体的・対話的で深い学びを目指す授業実践、教育的愛情と信頼が育まれた学級経営、創意と工夫による教育活動を推進する。
- (5) 施設・設備の効果的な活用に努め、学習に効果的な環境のより一層の充実を図るとともに、危機管理を徹底し、安心・安全な学校をめざす。
- (6) ワークライフバランスを意識した適正な勤務時間を目ざし、子どもと向き合う時間を十分に確保できるように業務を推進する。

【田原地域学校園教育ビジョン】

自立を目指しながら積極的に地域社会と関わる田原っ子の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育目標の具現化を図り、社会に開かれた教育課程の実現のため、本校の実態（施設・設備・職員構成・地域環境）、児童の発達段階や特性、地域社会や保護者の願い等を十分に把握し、知・徳・体の調和の取れた生きる力を育む教育課程を編成する。
- (2) 学習指導要領の原則を踏まえ、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）の育成のため教科横断的な視点に立って、カリキュラム・マネジメントを進め、学習の効果を高めていく。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（１）学校運営

- ア 『育もう！田西っ子プライド「思いやる心・気づく心・がんばりぬく心」』を合言葉に，活気ある学校づくりの推進（ウィズコロナ・アフターコロナにおける教育活動の推進）
- イ 地域との連携・協働を図った教育課程の編成・実施・評価・改善
- ウ 業務の重点化・効率化等による，教職員の勤務時間の適正化の推進

（２）学習指導

- ア 基礎基本の確実な習得と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- イ 育成すべき児童の資質能力を明確にしたカリキュラム・マネジメントの展開

（３）児童生徒指導

- ア 確かな児童理解に基づく一人一人の自尊感情を高める学級経営の充実
- イ 基本的生活習慣の育成といじめ・不登校を生まない指導の充実
- ウ 明るくあいさつや正しい言葉遣いができ，思いやりの心をもって行動できる児童の育成

（４）健康（保健安全・食育）・体力

- ア 運動の習慣化と体力向上 ～体育の時間における補強運動の充実～
- イ 健康課題を改善するための生活習慣の育成
- ウ 丈夫な体をつくるための望ましい食習慣の育成
- エ 自分で考え安全に行動できる児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は, 学習課題を解決するために, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながら, じっくり考え, 進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 「宇都宮モデル」を活用して分かる授業を展開し, 児童が学ぶ楽しさや分かる喜びを味わうことのできる学習活動の実施に努める。 ② 「田西っ子スタンダード」を基盤として学習の約束を徹底するとともに, 対話的な学習のもとになるペアやグループによる学び方を指導し, コミュニケーション力を育てる。 ③ 思いを言語化するための学びの土台作りのために, 朝のことばタイムや1分間スピーチの時間を設定し, 話し方・聞き方の指導を継続的に行っていく。また, 様々な学習場面で話し合いや書く活動を設定し, 目的と相手意識を明確にした言語活動を行うことで, 相手に伝わる表現力の向上を図る。 ④ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け, 授業研究会や授業を相互に見合う機会を充実し, 授業改善と指導力向上を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が81.8%であり, 目標値に達している。 【次年度の方針】 児童が学ぶ楽しさや分かる喜びを味わいながら, 主体的に学習に取り組むことができるよう, ペアやグループによる学び合いの場の設定や, 思いを言語化するために必要な指導を継続していく。
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し, 生命や人権を尊重する心や, 人を思いやる心などを涵養する。 ② 人権教育年間指導計画に基づき, 全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 児童会活動や各委員会における縦割り遊び・給食・清掃における縦割り班活動を通して, 異学年間の交流を活性化し, 相手を思いやる心を育む	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が84.6%, 教職員の肯定的回答が94.4%であり, 児童の目標値がわずかに下回った。 【次年度の方針】 田西っ子プライドと関連付けて振り返りを行い, 思いやりの心に気付くことができるようにする。
	A3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 「私は, 目標に向かって, あきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう, 児童の能力や取組を児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに, 担任も認め励ます指導に努める。 ② 各教科の授業や各行事等において, 児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに, 目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 清掃活動を中心として, 粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに, 実践に向けた意欲を高める。 ④ 各教科や学級活動のキャリア教育を通して夢や目標をもつことの大切さを実感できるように指導していく。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答が83.3%, 児童の肯定的回答が79.7%で目標値に達していない。 【次年度の方針】 各教科の授業や各行事等において, 「田西っ子プライド」の「がんばりぬく心」に触れる機会を増やして意識づけをしていく。

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行う。 ② 養護教諭や栄養士と連携した授業を取り入れ、食育や保健指導を充実させ、栄養バランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	【達成状況】 教職員の肯定的割合が100%、保護者の肯定的割合が88.9%であり、十分に目標値に達している。 B 【次年度の方針】 各教科の授業や各行事等において、健康や安全について触れる機会を増やして意識付けをしている。
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、自分のよさや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 「今の自分」、「ありのままの自分」を価値あるものとして捉えられるように、積極的に一人一人のよさを認め、励ましていくことで自尊感情を育む。 ② 「田西っ子スタンダード」の徹底により規範意識の醸成を図るとともに、あいさつや正しい言葉遣いについて繰り返し指導をすることで、児童相互がよりよいコミュニケーションをとれるよう促す。 ③ ハッピータイム（共遊の時間）やファミリー班活動（異学年交流の時間）を設け、児童相互および教師と児童の交流を図り、よりよい人間関係を構築する場の充実を通して、他を思いやる気持ちを育む。	【達成状況】 児童の肯定的回答が83.2%、教職員の肯定的回答が100%であり、児童の目標値が下回った。 B 【次年度の方針】 児童が目標を立て取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 外国語科や外国語活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 授業中に限らず、児童がALTと積極的に関わるよう、休み時間や給食、清掃など場の設定に努める。 ③ 外国語科や外国語活動に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。 ④ 活動における到達の姿を明らかにし、振り返りを位置づけることで、児童に自分の姿を見つめさせ、実践に向けた意欲向上を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答が60.9%であり、教職員の肯定的回答が83.4%で、どちらも目標値を下回った。 B 【次年度の方針】 授業に限らず、休み時間や給食、清掃など児童がALTとやり取りする機会の充実を図り、自信をもってコミュニケーションすることができるよう努める。
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答が81.8%で、目標値に達している。 B 【次年度の方針】 宇都宮の良さについて、生活科、社会科、総合的な学習の授業を中心として、様々な学習に関連付けて指導するように今後も努めていく。

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等 を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 授業の中で効果的に1人1台端末等を活用 する時間を設け、デジタル機器を適切に活 用することができる能力の育成に努める。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に 配慮した教育図書の整備充実等、学校図書 館の環境整備に努める。 ③ デジタルシティ体験を活用するなどして、 児童が先端技術に触れることができる機 会を設定する。	【達成状況】 児童の肯定的回答が83.2% であり、教職員の肯定的回答が1 00%であり、児童が目標値をわ ずかに下回った。 【次年度の方針】 学年に応じて1人1台端末等を 活用する時間を増やしていく。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、「持続可能な社会」 について、関心をもってい る。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 総合的な学習の時間における環境教育等 を通して、環境問題への関心を高め、環境 と調和しながら生きる意識や態度を育成 する。 ② 道徳教育年間指導計画に基づき、全教育活 動を通して道徳教育を計画的に実施する。 ③ 教職員が、環境問題や人権教育等について の研修を実施し、持続可能な社会づくりに ついて学んだり考えを深めたりしたこと を指導に生かすとともに、児童への意識付 けを図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答が81.8% であり、教職員の肯定的回答が8 3.4%で、両方とも目標値を下回 った。 【次年度の方針】 身近な問題や取組と「持続可能 な社会」というキーワードを結び つけるように支援し、児童の意識 を高める。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必 要とする児童（生徒）の実態 に応じて、適切な支援をして いる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任 を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関 する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏 まえた支援を組織的に行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級 においても、必要に応じて個別の支援計画の 作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導 に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答が100% で、目標値に達している。 【次年度の方針】 特別な支援が必要な児童につい て、学校全体で共通理解を図り、特 別支援コーディネーターや児童指 導主任を中心に、今後も教職員が 協力して支援を行うようにする。
3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実	A11 教職員は、いじめが許 されない行為であることを 指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許され ないことを熱心に指導してく れる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 学級活動、道徳科の授業等を通して、人を 思いやることや人権を尊重することの大 切さを指導するとともに、日常生活の中で いじめが許されない行為であることを繰 り返し指導する。 ② 児童会が主体となり、児童が自ら「いじめゼロ運 動」を推進できるよう支援し、望ましい児童集団 の育成に努める。 ③ 定期的なアンケートや教育相談等を通して児童 の心の状態を共感的に理解した上で、学校いじ め防止基本方針に基づき、組織的な対応により いじめの早期発見、早期解消を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答が93.7%、保 護者の肯定的回答が88.4%であ り、目標値に達している。 【次年度の方針】 引き続き、学校での教育方針や 実施したことなどを、保護者に啓 発していく。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し不応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図る。 ③ 必要に応じて関係職員でのケース会議を開き、不応傾向がある児童や不登校の兆候が見られる児童の早期発見と不登校の未然防止、早期対応に努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答が 93.0%、保護者の肯定的回答が 93.8%であり、十分に目標値に達している。保護者の肯定的回答は、6.6 ポイント上昇した。 【次年度の方針】 校内で情報共有をしっかりと図ることはできた。学年だよりや、電話連絡等で保護者への理解につながったと思うので、来年度も継続して取組を行う。
3- (3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 一人一人の児童が自分のもてるよさや可能性を発揮できるように、様々な集団活動の場を設定し、児童の主體的な活動を重視する。 ② 学級活動や児童会活動、縦割り班活動等を通して、児童が自他を尊重しながら活動する意識の醸成を図るとともに、児童にとって居がいのある望ましい集団づくりを行う。 ③ 授業や様々な活動を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます支援や指導を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合が 90.9%、保護者の肯定的割合が 100%であり、十分に目標値に達している。 【次年度の方針】 保護者に集団活動の場や、学校の様子について、ホームページや様々な機会に、積極的に発信する機会を増やしていく。
4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 各教科において、「田西っ子スタンダード」を基盤として学習の約束を徹底したうえで、基礎基本の定着を図る。 ② 「宇都宮モデル」を活用して分かる授業を展開し、学ぶ楽しさや分かる喜びを味わうことのできる学習活動を重視する。 ③ 算数科におけるTT、少人数、習熟度別等の学習形態を工夫し、分かる授業を展開する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答が 93.7%で、目標値に達している。 【次年度の方針】 児童が、学ぶ楽しさや分かる喜びを味わうことのできる授業を展開できるよう、今後も「宇都宮モデル」を活用したり、学習形態を工夫したりしながら、きめ細やかな学習指導を行っていく。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 「チーム田西」の合言葉のもと、学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員の協働性を高めることに視点を置いて組織運営に努めるとともに、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気を大切にしよう。 ② 授業を通して、効果的な言葉掛けや板書の工夫について教職員相互に伝え合うことで、学校全体の指導力の向上を図っていく。また、授業の成果や課題について相互に認め合い、理解し合う機会を繰り返し設けていく。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答が 100%であった。 【次年度の方針】 日常の一人一人の授業の成果を教職員に伝え合うことで、引き続き学校全体の指導力の向上を図っていく。また、授業後、成果や課題について相互に認め合い、理解し合う機会を繰り返し設けていく。 学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、全教職員が協働し組織運営に努める。

4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善として、会議のペーパーレスや行事の振り返りが次時に有効に生かせるような工夫をしていく。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用したり、学校支援事務担当の協力を得たりすることで業務を効率的に進め、超過勤務時間の削減に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答が 83.3%であり、目標値を下回った。 【次年度の方針】 引き続き、学習情報システムを有効活用した情報交換、文書作成、アンケートの実施、校内掲示板の利用を行ったり、日直の負担軽減など業務の効率化を図ったりしていく。 各種行事等の実施方法の改善を継続的に行う。 時間を意識して業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、児童生徒や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 田原地域学校園ビジョンに基づいた「田原地域学校園年間指導計画」の下、自ら進んで何事にも取り組むことを重点として、小中一貫教育・地域学校園を推進する。 ② 田原中と連携し小中合同の「あいさつ運動」や6年生の進学先中学校訪問、中学2年生の宮っ子チャレンジなどの取組について、各種学年だよりや校内掲示、HPなど様々な機会を捉えて積極的に発信し、理解を深める。 ③ 地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して連携を図り、学校園内の相互支援体制を充実する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答が 100%で目標値に達した。保護者の肯定的回答も 86.1%であり、昨年度より約 10 ポイント上昇し、目標を上回った。 【次年度の方針】 6年生の中学校訪問やあいさつ運動、宮っ子チャレンジ、陸上競技大会プレ大会など交流を主とする取組を実施し、HP や学年だよりなどで積極的に保護者へ発信していく。 田原地域学校園ビジョンに基づき、各分科会における交流活動の充実をさらに図り、互いの理解を深める。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 田原西小学校地域協議会を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行っていく。 ② 登下校や校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などにおいて学校支援ボランティアを有効に活用し、家庭や地域と連携して教育活動の充実を図る。 ③ 家庭や地域社会から得られる情報を教育資料として学習活動に反映させ、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 90.9%、地域住民の肯定的回答は 100%であり、どちらも昨年度の肯定的回答割合及び目標数値を上回った。 【次年度の方針】 地域協議会を年4回開催し、多角的・多面的視野で意見を交換することで、学校経営方針に反映させていく。地域の方の意見を反映できるような取組を行い、学校だよりやHPを通して発信する。 家庭や地域社会との連携による体験的活動を工夫し、地域の教育力をボランティアとして有効に活用していく。 オンラインなどのICTを活用した工場見学や講座を受講した体験を積極的に取り入れ、ライフキャリアを積み上げて望ましい授業感を育てていく。

6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館校庭等学校内施設・設備について、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症対策、感染症予防対策など、学校全体で時期に応じた保健指導管理に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答が 100%、保護者の肯定的回答が 93.9%であり、どちらも昨年度の肯定的回答割合及び目標数値を上回った。 【次年度の方針】 今後も継続して避難訓練などの安全に関する取組の様子を、学校だよりや学年だより、学校ホームページ等で発信していく。 引き続き各教室、特別教室、廊下、体育館校庭等学校内施設・設備について、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタル※を積極的に活用している。 ※デジタル…一人一台端末、ミライム、スズキ校務、さくら連絡網など」 ⇒教職員 90%以上	① 1人1台端末を効果的に活用する授業づくりについて校内研修や実践例の情報共有を行う。 ② デジタルを活用した授業や校務の効率化についての研修を、ICT支援員の協力により実施する。 ③ 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にデジタル機器を活用する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答が94.4%で、目標値に達している。 【次年度の方針】 ICT支援員にも協力してもらいながら、授業や業務に積極的にデジタル機器を活用できるよう、努力していく。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒地域住民 80%以上	① 児童会で実施する「あいさつサポーター」制度や、PTAや地域と連携を図ったあいさつ運動を推進し、自然にあいさつができる学校を目指す。 ② 家庭や地域でも時と場に応じたあいさつができるよう、保護者の意識を高めたり、協力を得たりできるような啓発の仕方を工夫する。 ③ 学級活動において、「場に応じたあいさつ」について話し合い活動を行い、あいさつを進んで行う態度を目指す。	【達成状況】 児童の肯定的回答が86.0%、保護者の肯定的回答が85.5%、地域住民の肯定的回答が100%であり、目標値に達している。 【次年度の方針】 PTAや地域と連携を図りあいさつ運動を行うことができた。更にあいさつを進んで行うことができるよう、啓発を図る。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 各学級で「田西っ子スタンダード」の意識化と徹底を図り、規範意識を醸成する。 ② 廊下の歩行、チャイム着席を含む時間の厳守を重点課題とし、秩序と安全の大切さについて、根気強く継続的に指導する。 ③ きまりやマナーを守って行動していることを、児童会活動等で児童が相互に認め合う場や教師が称賛する機会を設け、教師を中心に規範意識の醸成を図る。 ④ 生活目標と関連付けた具体目標を、各クラスで考え掲示する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答が94.4%、保護者の肯定的回答が87.3%であり、目標値に達している。昨年度より、教職員、保護者ともに低下している。 【次年度の方針】 今後も取組を継続して行い、規範意識の醸成を図る。児童が相互にきまりやマナーを守って行動できるよう放送で呼びかけを行う。

	B3 児童は、毎日家庭学習に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、毎日家庭学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 年度当初に保護者向け「家庭学習のすすめ」や児童向け「自主学習メニュー」を配付し、家庭学習に積極的に取り組めるように支援する。 ② 家庭学習の内容から児童のよさや努力していることなどを紹介し、称賛したり伝え合ったりすることにより、成果を認め励ます機会の充実を図る。 ③ 家庭学習強化週間を設けて保護者に呼び掛け、学校と保護者が協力合って定着を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答が70.7%であり、保護者の肯定的回答が64.8%で、目標値を下回った。 B 【次年度の方針】 家庭学習の大切さを理解させ、意欲がもてるように継続して家庭学習強化週間を実施していく。 家庭への啓発を工夫し、家庭と連携して取り組めるようにする。
	B4 児童は、本を読むことが好きである。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、本を学習に活用したり、進んで読書したりしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 図書室の活用はもちろん、月1回の朝の読み聞かせ・朝の読書や外部人材の活用を通して、読書指導や言語環境の充実を図る。 ② 校内読書週間を設けて、児童に図書室利用を啓発するとともに、図書委員会による様々な取組を行う。 ③ 児童の意欲を高めるよう学習センター、読書センター、情報センターとしての機能を充実させる図書室の整備を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答が72.8%であり、保護者の肯定的回答が57.4%で、目標値を下回っている。 B 【次年度の方針】 児童が本を読むことへの意欲を高められるよう、朝の読み聞かせや図書委員会によるイベント活動などの取組を行ったり、授業でも積極的に図書室を利用する機会を設けたりしていく。
	B5 児童は、体育の授業や休み時間に進んで運動している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、体育の授業や休み時間に進んで運動している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 各学級で休み時間の外遊び、さらに冬季の外遊びを奨励し、児童の意識を喚起する。 ② 体育的イベントを企画・実施し、運動の楽しさを体験させる。 ③ 持久走記録会に向けての自主練習の励行や縦割り班でのなわとび週間の実施により、児童各自の目標達成に向けた意欲高揚と体力向上を図る。 ④ 各クラスによる共遊(ハッピータイム)だけでなく、縦割り班での共遊の時間も設けて楽しく運動する時間を増やす。	【達成状況】 児童の肯定的回答が76.2%、児童の肯定的回答が82.4%で目標値に達していない。 B 【次年度の方針】 今後も取組を継続する。空調の効いた体育館の解放を行い、一年を通して運動できる機会をつくる。
	B6 児童は、「田西っ子プライド」を意識して行動し、田西小の一員であるという自覚をもって生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、「田西っ子プライド」を意識して、「気づく心・思いやりの心・がんばりぬく心」を発揮して生活しています。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 「田西っ子プライド」の具体的な姿を分かりやすく示すとともに、粘り強くやり抜くことを意識して生活できるよう、向上心や自尊心の醸成を図っていく。 ② 清掃や縦割り班活動を通して、「気づく心・思いやりの心・がんばりぬく心」を意識した声掛けを行ったり、称賛したりすることで、3つの心を育む。	【達成状況】 児童の肯定的回答が83.9%、教職員の肯定的回答が94.4%であり、児童の目標値が下回った。 B 【次年度の方針】 普段の活動においても「気づく心・思いやりの心・がんばりぬく心」を意識できるよう、指導の充実を図り、意識を高める。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

宇都宮市の共通項目全てにおいて、児童の肯定的回答は市の平均を下回っている。児童の学校生活の様子から自己肯定感の低さが危惧されており、その点が回答結果に少なからず影響していると考えられる。

A12「不登校を生まない学級経営を行っている。」A14「分かる授業やきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」については、児童・保護者・教職員全てにおいて肯定的回答が9割を超えているので、引き続き児童に寄り添った学習指導・児童指導を心掛けていく。A7「児童は宇都宮のよさを知っている。」については、児童・保護者・教職員全てにおいて昨年度より肯定的回答割合が高い。総合的な学習の時間や生活科、校外学習等で学習内容に関連させながら、児童が身近な地域や宇都宮市のよさに触れ、気付きを促すような活動を展開してきた結果と言える。さらに活動内容を工夫し、児童の気付きや理解を深めていきたい。

また、今年度は、あいさつ運動や学習支援ボランティアなど保護者や地域の方々との連携・協働活動もコロナ禍前同様に実施できたことにより、児童の活動に広がりをもたせることができた。今後も家庭・地域住民の協力を得ながら、連携・協働を進めていく。

B6「田西っ子プライド」に関する質問については、地域住民・保護者ともに昨年度より肯定的回答割合が高いが、児童・教職員の肯定的回答の割合は下がってしまった。今後も引き続き児童指導主任や学習指導主任のリーダーシップのもと、「思いやる心・気づく心・頑張りぬく心」をスローガンとし、児童一人一人が「田西っ子プライド」を意識し、自ら学ぶことの喜びや楽しさを感じることができる活力あふれる学校づくりを目標として、教育活動の充実を図っていく必要がある。さらに、保護者・地域との連携・協働のもと、教職員が一丸となって児童一人一人の自尊感情を高めていく学級経営の工夫と充実に努め、学校教育目標の具現化に取り組んでいく。

7 学校関係者評価

昨年度と同等の評価をいただいた。B1「児童は時と場に応じたあいさつをしている。」については、100.0%の肯定的回答で市の平均より約8ポイント上回った。地域協議会や地域学校園で連携して、継続的に挨拶奨励をしてきた成果と言える。しかし、まだまだ個人差があることは否めないため、今後も家庭や地域と連携して挨拶奨励の取組を継続していく。

A19「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」については肯定的回答の割合が9割を超えたが市の平均より約5ポイント低い。児童の安全に配慮した環境づくりの充実は、今年度に引き続き来年度も学校の課題の一つである。

通学路の安全確保については、常に地域の多くの方々からご支援をいただいている。今年度も、地域協議会とPTAとの連携協働により通学路の除草ボランティア活動が実施され、児童の登下校の安全確保に有効であった。今後も、児童の様々な活動において、学校と家庭、PTA、地域との連携協働活動の広がりを探っていきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今後も家庭やPTA、地域と連携し、地域学校園での挨拶奨励の取組を継続し、児童が自ら進んで挨拶できるよう年間を通して学校全体で呼び掛けていく。さらに、家庭や地域住民との連携協働による体験的活動の機会を設け、地域の教育力をボランティアとして有効に活用していくことにより、児童同士が生き生きと学び合える活気ある学校づくりを推進する。

学習面においては、反復学習の奨励や家庭学習強化週間の実施等基礎基本の確実な習得に向けた取組の推進とともに、積極的にICT機器を活用し、児童が互いに考えを交流し深める展開の工夫など、主体的で対話的な深い学びにつながるような授業改善に努めていきたい。

全ての教育活動に、児童スローガンである「育もう！田西っ子プライド『思いやる心・気づく心・頑張りぬく心』」を位置付け、児童が3つの心を磨き、自尊感情を高めていくための取組を児童育成の基盤とする。